



骨粗鬆症について ③

骨粗鬆症の治療薬は、大きく分けて3種類あります。

①骨を壊す働きを抑える薬 ②骨を作る働きを高める薬 ③骨の作り替えのバランスを整える薬

前号にて①骨を壊す働きを抑える薬、を説明しましたので、今回は②骨を作る働きを高める薬、③骨の作り替えのバランスを整える薬についてお話しします。

②骨を作る働きを高める薬

「副甲状腺ホルモン薬」と言われるものがあります。骨芽細胞が骨を作る働きを促進する作用があり、骨が壊される働きとのバランスを保ちます。

- ・フォルテオ注、テリボン注（1日1回 自己注射）
- ・テリボン皮下注用（週に1回 病院での注射）

*①骨を壊す働きを抑える薬と②骨を作る働きを高める薬、両方の作用を持つ薬もあります。

- ・イベニティ皮下注（月に1回 病院での注射）

ただし、過去1年以内に虚血性心疾患、脳血管障害の既往の方は使用不可です。

③骨の作り替えのバランスを整える薬

「活性ビタミンD3薬」破骨細胞の働きを抑えて、骨を壊す作用を抑制します。

また、小腸からのカルシウム吸収を促し、骨を作る働きも促進します。

- ・商品名 アルファカルシドール（アルファロール、ワンアルファ）

*副作用として、骨を壊す働きを抑えるビスホスホネート製剤やデノスマブには、まれに抜歯などの歯科治療中に顎の骨が壊死することがあるので、薬を服用中であることを伝えてください。

（薬剤科長：佐藤 ゆかり）

今年は9月下旬まで暑い日が続き、これまでに経験したことのないような夏でした。その影響でダメージが蓄積したのか、体調を崩してしまうことがありました。

皆様も、季節の変わり目や寒暖差で疲れなどが出るところと存じますので、どうぞ自愛のうえお過ごしください。

（地域医療連携室：佐藤 誠之）



先日自宅で咲いた「月下美人」です

編集後記

【発行元】
仙台東脳神経外科病院

〒983-0821
宮城県仙台市宮城野区岩切1丁目12番1号

Tel : 022-255-7117 (代表) Fax : 022-255-7760



ホームページは
こちらから

【関連病院】
仙台リハビリテーション病院

〒981-3341
宮城県富谷市成田1丁目3番1号

Tel : 022-351-8118 (代表) Fax : 022-351-8126

仙台東脳外だより

編集：仙台東脳神経外科病院 地域医療連携室 / 発行：2023年10月

ご自由にお持ちください

病院薬剤師として

薬剤師＝調剤（薬）と、薬剤師は対物業務のイメージがあると思いますが、今回は病院薬剤師についてお話をさせていただきます。病院薬剤師の主な仕事は「病棟薬剤業務」です。薬剤師が病棟へ行き、臨床業務の中で入院患者さんの①薬歴管理、②服薬チェック、③服薬指導、④処方されている薬が安全・適正に使用されているかを確認します。

当院では高齢の患者さんが多いことから、加齢による疾病や生理的变化に伴う多剤併用による薬物有害事象の有無確認、そしてお薬が飲みにくくなるなど服用に関することに注意をしています。

また、近年言われている「医療現場における働き方改革」の鍵とされる「タスクシフト・シェア」については。医師に偏在している業務の一部を薬剤師や看護師に移管したり、共同実施したりすることを指しますが、当院においても医師の補助や負担軽減のため、薬剤師ができることは行い「タスクシフト・シェア」の実践に取り組んでいます。



薬剤科長

さとう

佐藤 ゆかり



そして、医師や看護師をはじめ診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技師等と協力し「チーム医療」を行う中で、薬剤師は薬の専門家として一人ひとりの患者さんに応じた様々なケアを行っています。このように病院薬剤師は、薬（対物）は勿論ですが、患者さんやスタッフ（対人）との対応が重要となっており今まで以上に「対人対応力」が求められています。

当院の薬剤師にいつも話していることが2つあります。薬剤科から出て幅広い業務に対応する力と、知識だけではなく患者さんへの「献身力」を医療の中で発揮していく力についてです。これらを実践できるよう、共に成長できる職場環境づくりに取り組んでいます。そして、お薬以外のことでも患者さんに寄り添える医療人が集う薬剤科として、これからも活動していきたいと思っています。

最後に「いつも笑顔で」が薬剤師である私のモットーです。

脳梗塞のいろいろ

脳梗塞は、脳卒中の中では最も多い病気です。

2020年の全国調査では、脳梗塞が約75%、脳出血が約20%、くも膜下出血が約5%の割合でした。脳梗塞にもいろいろありますが、大きく3つのタイプに分類されています（それぞれ脳梗塞全体の3分の1）。脳梗塞のタイプを知っておくことは、脳梗塞予防にもつながると思います。

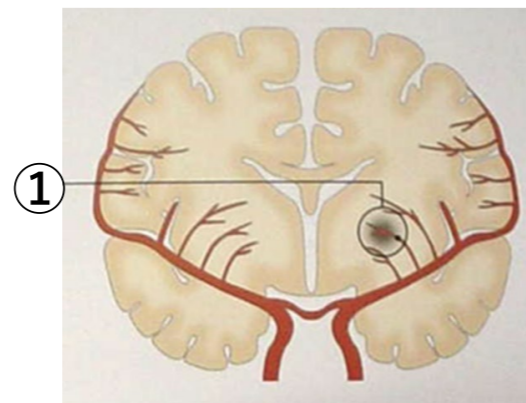
ラクナ梗塞：「細い動脈の動脈硬化」①

「ラクナ」とはラテン語で「小さなくぼみ」という意味です。脳深部の穿通枝の動脈硬化が原因です。

細い動脈閉塞による脳梗塞です。

ほとんどは1.5cm以下の小さな脳梗塞ですが、手足の運動に関わる神経が密集した領域に好発します。

3つの脳梗塞タイプの中では、若い人（40歳代～）に多く、**高血圧**が一番の原因です。



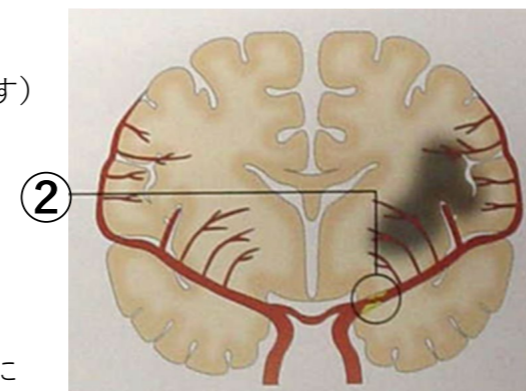
アテローム血栓性脳梗塞：「太い動脈の動脈硬化」②

太い動脈の動脈硬化により、血管壁に脂肪や血栓がへばりつき、狭窄・閉塞を来すものです。

（煙突にススがへばりつき、詰まってしまうイメージです）軽い症状で始まっても、大きな脳梗塞に進行する危険があります。手足の麻痺以外に、言語障害、視野障害などの大脳の症状もみられます。

全身の動脈硬化（心臓の冠動脈、足の動脈狭窄）を合併しやすく、**糖尿病**が重大な危険因子です。

年齢とともに動脈硬化は進行するので「人は血管とともに老いる」とも言われます。



心原性脳塞栓症：「心臓の血栓による塞栓」③

不整脈等により、心臓にできた血栓が流れてきて脳血管を閉塞します（塞栓と言います）。

突然、太い動脈が閉塞するので重症例が多いです。

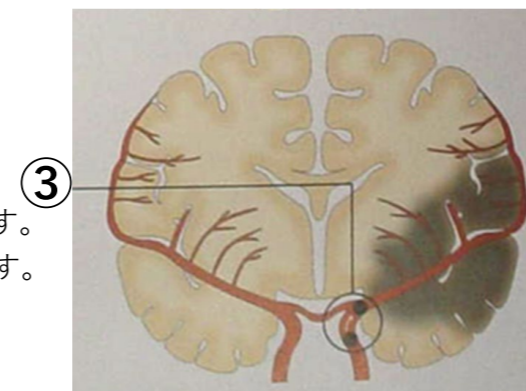
（意識障害、言語障害、手足の麻痺等）

時間が早ければ、閉塞血管を再開通させる治療が可能です。

「時間との闘い」であり、「Time is Brain」と言われます。

多くは**心房細動**という不整脈が原因です。

心房細動は60歳から有病率が増加します。



次回から、それぞれの脳梗塞について、もう少し詳しくお話させていただきます。

（脳神経外科部長：渡部 憲昭）

部署紹介

リハビリテーション室



当院には10名の**理学療法士**がおり、脳血管疾患、脊髄疾患、外科術後の患者さんを中心に早期から介入しております。理学療法の役割は運動療法、物理療法を用いて早期の基本動作、歩行の再獲得、生活機能向上を目指し、機能的な側面からのアプローチだけでなく、他職種とも連携し「本人にとって普通の生活」にどうしたら近づくことができるかを考えて介入しています。ご本人のみならず、時にはご家族の方にも身体の使い方や日常生活での注意点等をお話させて頂きながら、ご自宅に帰られた後皆さんが安心して過ごせるようコミュニケーションを図りながら「本人にとって普通の生活」を楽しんで頂けるお手伝いを致しております。

（リハビリテーション室 副主任 理学療法士：木村 友哉）

皆さんこんにちは！**作業療法士**チームには6名が在籍しています。皆さんは作業療法（OT）と聞くと「手のリハビリ」のイメージが強いかもしれませんが。私達はリハビリテーション専門職の一つで、その役割は健康を支え、より幸せな日常生活をお送り頂くために【作業＝目的や価値を持つ生活行為＝日常生活動作、家事、仕事、趣味、遊び、他者交流、等々】を通して患者さんのありたい姿を叶える事です。たくさんコミュニケーションをとりながら、疾患により低下した生活機能向上を図り、その方の「役割」や「幸せ」に寄り添いながら、急性期からの介入、早期に「作業」の再獲得を目指して、日々作業療法を実践しております。

（リハビリテーション室 副主任 作業療法士：今野 麻由）

言語聴覚療法部門では、6名の**言語聴覚士**が在籍しています。急性期における言語障害（聴く、話す、読む、書く等が障害される失語症、呂律が回らないなどの構音障害）、摂食嚥下障害（食べることの障害）、高次脳機能障害（思考、記憶、言語、注意等の障害）等を対象としたリハビリテーションを実施しております。

聴く、話す、表現する、食べるなど、誰でもごく自然に行っていることが脳卒中などで不自由になることがあります。言語聴覚士はコミュニケーションや嚥下に問題がある方々の社会復帰のお手伝いをしております。

近年の高齢化社会に伴い、摂食嚥下障害を持つ患者さんが年々増加しております。食事を安全に摂取できるように、他職種間で連携しながらリハビリテーションを実施しております。

（リハビリテーション室 副主任 言語聴覚士：鎌田 花子）

